

# 第1学年 生活科学学習指導案

指導者 ○○ ○○

## 1 単元 「あきとあそぼう」

### 2 単元について

本単元では、季節の移り変わりを体感できる場所に継続的に出かけて遊んだり、自然や町の様子の変化をさがしたりする活動を通して、自分たちの身の回りの変化に気づき、これからの季節の変化に関心や期待をもつことができることをねらいとしている。自然にかかわる活動を繰り返すことは、問題意識をもって自然を観察するといった積極的なかかわり方が期待でき、地域の自然にいつそう親しみをもつことができる。児童は、見る、聞く、触るをはじめとする様々な感覚を使って、秋を体全体で感じとり、自然の美しさ、不思議さや面白さなどの自然のすばらしさに気づくことができる。自然を利用した遊びは、児童が素直に対象に関わっていくことができる活動である。また、公園で見つけた自然物を使って、友だちと一緒に遊ぶものをつくったり、一緒に遊び合ったりする活動を通して、身近な人とかかわる楽しさに気づくことができると思う。

本学級の児童は、外で遊ぶことが大好きで、身近な自然に触れる機会が多く、昼休みに花を見つけて教室に持ってきたり、家の近くで捕まえた生き物の話をしたりと、自然と積極的にかかわっている。これまで、1学期の学習では、公園を探検し身近な草花や虫、はっぱ、木の実等を見つけ、夏の植物や生き物の大きさや形等、どんな様子であるのか観察してきた。その際に、春と夏の様子を比較し、季節の変化に気づかせる学習を行った。身近な生き物（虫、植物）について知っていることを発言することはできたが、春と夏を比較し、季節の変化に対する気づきを発表できた児童は少数であった。また、「いきものとなかよし」の学習では、校庭の虫を探しに出かけ、虫によって生息している環境、体の様子や動き等が違うことに気づき、意欲的に調べる活動を行ってきた。これらの活動を通して、季節が変わると植物や虫などの様子も変わっていることに気づきはじめている。しかし、季節が変わると植物や虫などの様子がどのように変わるかや自然の不思議さ、面白さ、それによって自分たちの生活が変化していることに気づいている児童は少ない。学習の進め方については、教師が「どこから分かる」や「どうしてですか」と問い返すと、自分の考えとそのわけを述べるようになってきた。また、友達の意見に対して、「なぜ」と問う児童が増えてきている。児童が自分自身で考えにわけを添えて表現する力が育ちつつある。

指導にあたって、「出会う」段階では、身近な自然や季節の行事について問いかけ、知っていることや気づいたことを話し合わせるにより、自分と自然とのかかわりに目をむけさせ、季節の変化に関心をもち、進んで秋を見つけようとする意欲をもたせる。「追究する」段階では、公園に出かけ、秋見つけを行う。秋見つけを行うことで、諸感覚を使って秋を体全体で感じ取らせたい。さらに、公園で見つけた秋の虫・葉・種・木の実等について夏の頃と比較することを通して、季節の変化に気づかせたい。また、集めた秋の自然物の特徴を生かして、おもちゃ作りを行う。自ら集めてきた秋の素材をもとに、秋の自然物を使った遊びを通して、秋とかかわる楽しさを味わうことができると思う。「生かす」段階では、つくった秋の自然物でつくったおもちゃで遊んだことを振り返り、遊びがみんなでより楽しくなる方法を考えていく。比べ、繰り返し、試しながら改善する際に、友だちと共につくったり、遊んだりすることで、互いの思いや気づきを伝え合うようにさせたい。また、自分でつくったおもちゃで遊ぶ楽しさや友だちと交流することの良さに気づかせたい。そして、自分や友だちのがんばりや良さを再認識させ、自分の成長に気づくことができるようにする。

### 3 単元の目標

- 自然の変化や秋の自然物を使った遊びの面白さに気づくことができるようにする。  
(知識及び技能)
- 秋の特徴を見つけたり、秋の自然物を使って遊ぶものを工夫してつくったりすることができるようにする。  
(思考力・判断力・表現力等)
- 季節の変化を生活に取り入れ、自分の生活を楽しくしようとしたり、みんなと楽しみながら遊びをつくり出そうとしたりしようとする態度を養う。  
(学びに向かう力、人間性等)

### 4 評価規準

ア知識・技能	イ思考・判断・表現	ウ主体的に学習に取り組む態度
秋の自然を見つけたり遊んだりする活動を通して、秋の自然の様子や夏から秋への変化、それを利用した遊びの面白さに気づいている。	秋の自然を見つけたり遊んだりする活動を通して、秋とその他の季節との違いや特徴を見つけたり、遊びや遊びに使う物を工夫してつくったりしている。	秋の自然を見つけたり遊んだりする活動を通して、季節の変化を取り入れ自分の生活を楽しくしたり、みんなと楽しみながら遊びをつくり出そうとしたりしている。

### 5 単元計画 (12時間)

段階	時	目標	学習活動	評価規準
出会う	1	身の回りの生活の中から秋を見つけ、季節の変化に関心をもつ。	○身近な自然や季節の行事を話し合う。	身近な秋を進んで見つけようとしている。【態】
	2 3	公園で諸感覚を使って秋を見つける。	○公園の秋を見つける。	公園の秋の自然の様子や特徴、夏から秋への移り変わりに気づいている。【知・技】
追究する	4 本時	夏と比べて、季節の変化に気づくことができる。	○校庭や公園で見つけた秋と夏を比べる。 【わけ】 夏と比べて秋だと感じたわけ	夏と秋を比べながら、秋だと思うわけを捉えている。 【思・判・表】
	5	公園で見つけた秋の自然物を使って、もっとしてみたいことを考えることができる。	○秋のもので遊びたいものやつくりたいものなど、自分たちがしてみたいことを話し合う。	秋の自然を楽しみたいという思いや願いをもって、自分たちがしてみたいことを考えている。【態】
	6 7	公園で落ち葉や木の実などを使った遊びを楽しむことができる。	○自分の遊びたいことを考え、落ち葉や木の実などで遊ぶ。 【わけ】 落ち葉や木の実などで遊びながら、遊びを工夫したわけ	諸感覚を使って見つけた秋を、比べたり、たとえたり、言葉で表現したりしている。 【思・判・表】
	8	集めてきた秋の自然物を使って、自分のつくりたい物を考えること	○集めてきた秋の自然物を使って、自分のつくりたい物を考える。	秋の自然を楽しみたいという思いや願いをもって、自分たちがしてみたいことを考

		ができる。		えている。【態】
	9 10 11	集めてきた秋の自然物を使って、自分のつくりたいものを工夫してつくることができる。	○秋の自然物を使って、自分のつくりたいものをつくる。	工夫しながら、自分のつくりたいものをつくろうとしている。【思・判・表】
生かす	12	友だちと一緒に考えたことを基に、遊びを改善することができる。	○友だちと見せ合ったり教え合ったりしたことを参考にして、さらに工夫を加えていく。 【わけ】 秋の自然物を使った遊びがより楽しくなるような改善点	みんなで楽しむことのできる約束やルールなどを考えて、遊びをつくり出している。【思・判・表】

## 6 本時（4／12時）

### ○ 主眼

秋の虫・葉・種・木の実等について、観察したことを諸感覚を使って、夏と比べる活動を通して、季節の変化に気づくことができる。

### ○ 準備 夏と秋の写真、掲示物、ワークシート

### ○ 展開

過程	学習活動	○手立て 【】 評価
見通しをもつ	1 前時学習を振り返り、本時学習のめあてをつかむ。	○ 公園を探検した様子を写真で提示することで、夏から変わったものを紹介しようとする意欲をもたせ、本時学習のめあてをつかませる。
	(めあて) あきのはっぱやみ、むしをしようかいしよう。	
考えをもつ	2 公園で見つけたものを発表する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <b>評価のものさし</b>            夏とは様子がちがう、葉っぱ、実、虫を夏と比べながら、紹介することができる。         </div> ○ 公園で見つけたものを発表し、交流することで、どんなものがあったのか想起させる。想起させた際に、どんな大きさや色、形、触った感じ、数等であったのかを問うことで、見つけたものの様子を捉えさせる。
	3 公園で見つけたものの夏の様子を振り返る。	○ 夏に公園で見つけた虫や葉、実等はどうな大きさや色、形、触った感じ、数等であったのか写真や発見カードを振り返ることで想起させる。

<p>考えを広げ深める</p>	<p>4 夏と比べてどのように変わったのか考える。  (1) 自分の考えをつくる。  <b>【わけを表現する活動】</b></p> <p><b>【期待する児童の表現】</b>  もみじのはっぱがちがいます。夏は緑のはっぱがたくさんあったけれど、秋にはオレンジに色が変わっているからです。</p> <p><b>【期待する児童の表現】</b>  さくらははっぱがちがいます。夏のさくらははっぱは、触ってもぼろぼろにならなかったけれど、秋はぼろぼろになるからです。</p> <p><b>【期待する児童の表現】</b>  どんぐりがちがいます。夏は木に緑の小さいどんぐりがくっついていたけれど、秋には茶色の大きいどんぐりになっているからです。</p> <p><b>【期待する児童の表現】</b>  虫がちがいます。夏にはセミをよく見ている、鳴き声が聞こえていたけれど、秋にはコオロギの鳴き声をよく聞くからです。</p> <p>(2) 自分の考えを交流する。</p>	<p>○ 夏の様子を想起させることで、公園に探検に行った時と様子が変わっていることがあることに気づかせる。</p> <p>○ 公園で見つけたものが、夏とどのように変わったのか考えさせるため、大きさや色、形、触った感じ、数という視点を与え、ワークシートに記述させる。</p> <p>(わけ) 夏と比べて秋だと感じたわけ</p> <p><b>【評価規準】</b> (思・判・表)  夏と秋を比べながら、秋だと思いうわけを捉えている。</p> <p>○ 「評価のものさし」を意識しながら、自分の考えをつくるができるようにする。</p>
<p>考えを振り返る</p>	<p>5 秋の季節について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はっぱの色が変わる秋</li> <li>・はっぱや木の実が落ちる秋</li> <li>・実がたくさん採れる秋</li> <li>・見られる虫の種類が変わる秋</li> </ul> <p>6 本時学習をまとめ、振り返る。</p> <p>(まとめ)  なつからあきになると、はっぱやみ、むしがかかる。</p>	<p>○ 児童が発表した秋を整理しながら、板書することで、それぞれの気づきを広げたり、深めたりする。</p> <p>○ 秋について気づいたことの共通点や相違点を見つけさせ、まとめへとつなげる。</p> <p>○ 「評価のものさし」を基に、学習を振り返らせることで、達成感を味わうことができるようにする。</p>